



「あさひ福祉作業所の皆さんに感謝をこめて」

社会福祉法人 雲柱社 理事長 服部 栄

30 年余にわたるあさひ福祉作業所との交流の思い出を自由に述べてほしいとの要請を頂いたので、思い出すままに書かせていただくことにしました。これは私のまったくの個人的な感懐であることをお断りしておきます。

<あさひ福祉作業所との出会い>

私が働いていた本所賀川記念館に関西出身の方が職員として就職されました。名前を川崎さんといって、アニメを描く人で手塚治虫さんのお弟子さんでした。なかなかアニメでは生活が出来ず、記念館の職員採用募集を何かで見つけられて応募されたのでした。

彼は手話も得意で、そのやさしい人柄はたちまち子どもたちの人気者になっていきました。彼が描くイベントのポスターはそれは見事で、行事が終了してもしばらくは展示しておいたものでした。その頃、記念館では中・高校生プログラムの一つとしてワークキャンプを実施していました。

川崎さんが就職した次の年の初めの事業計画を立てるときに、その年のワークキャンプ先が話題となりましたその時、川崎さんから親戚の人が山梨県で障がい者の授産施設の事業をしていて、ボランティアを求めているらしい、と言う話をされました。名前はあさひ福祉作業所、何でもご夫婦で公務員を途中で退職されて始めた事業であるらしい、、くらいしか情報はありませんでした。

「よし、そこをお願いしてみよう、、、」、早速、電話をしてみますと、「いつでもどうぞ、ただし何の面倒も見られませんよ」、といささかぶっきらぼうの返事が返ってきました。

その年の 6 月、運転免許取立ての仲間の大学生の車に 4 人が便乗して、あさひ作業所に向かいました。中央高速須玉インターで降りて、あちこち捜してやっとあさひ福祉作業所を見つけることができました。電話の主である島先生が出迎えてくれました。

事務室に招きいられると、先生はいきなり冷蔵庫から缶ビールをとりだし、「まっ、、どうぞ一杯、、、」と私たちの前におかれました。

これにはびっくり仰天、、、、ひたすら恐縮してビールの歓待を辞退したのでした。

その頃のあさひ福祉作業所の回りは、なだらかな丘の中腹にあって、野趣にとんだ環境に取囲まれていました。もちろん、現在のグランドやテニスコート、体育館などはありませんでした。前方に八ヶ岳連峰、目を転じれば南アルプの連山が一望できました。

その雄大な景色に息をのむ思いでした。(残念ながらその日は富士山を見ることができませんでした。)

「ウワー、、何てすばらしい自然環境なんだ、、、」、作業所をそっちのけでその景色にみとれてしまい、一気にこの土地が好きになってしまいました。

8 月のワークキャンプの受け入れをお願いしてあさひ福祉作業所を後にしました。

果たして、あそこで私たちは何が出来るのだろうか、、、

帰りの車の中での話し合いは、期待と不安が入り混じった会話となりました。

<アクシデント>

第一回目のワークキャンプの時でした。

痛恨のアクシデントが起こってしまいました。

仲間が買い物に行った帰りに、坂道で運転を誤って坂下の農家の納屋に車ごと突入してしまったのです。知らせを聞いて一瞬心臓が止まる思いでした、、、

「うろたえるな、、、」、とあわてふためく自分を叱りつけ、当時のあさひの責任者であった島先生（現在の島代表のご主人）に相談し、朝早くレッカー車を頼んで車を引き上げてもらいました。もちろん警察には届けませんでした。農家の方も、島先生の取り計らいで、事故を表ざたにすることなく済ませてい

ただくことが出来ました。

幸い乗っていた2人の若者は、たいした怪我もなく、私たちは無事にキャンプを終えることができたのでした。もし、島先生の適切な配慮がなかったらどうなっていたことか、感謝と共に、今考えても冷や汗の流れる思いです。この事故はキャンプに対する私の安易な危機管理の姿勢を、厳しく問われることになりました。特に参加者の親たちからの影の批判の声が私の耳にも届きました。いまなら引責辞任は避けられなかったのではないかと思います。

その後のキャンプの折にも、長坂駅からタクシーであさひに向かうとき、件の坂道を通る際に、当時の光景がまざまざと思い出されてきます。

<わが子を置き去りにする>

あさひで私が犯した失敗は枚挙に暇がないのですが、その中でもこの出来事は実に無責任極まりないものでした。

あさひのキャンプには、途中から中学生も参加できるようになりました。

ある年のキャンプに中学1年になった私の息子を参加させることにしました。

仕事に來たのか虫取りに來たのか、区別もつかないようないい加減な子どもでした。

3日目の午前中の作業を終えて、あさひ福祉作業所の車で長坂駅まで送っていただくことになりました。

「さあ、帰るぞー、」みんなに声をかけて車に乗り込み、駅に向かいました。

ここが私のいい加減なところで、人数の確認をしませんでした。

車が駅に着いて間もなく、もう1台の車が猛スピードで駅前の広場に入ってきました。

運転されていた島先生が車を降りるなり、「服部さん、あんたも酷い親だねえ、、、息子さんを忘れちゃダメじゃないか、、、」、と笑いながらおっしゃいました。

周りからどっと笑いの渦が沸きあがりました。みんなの笑い顔から、「またやったね、、、」、と言うあきれ顔の表情を読み取ることができました。

「ああ、なんと縁の薄い親子なのか、、、」、そんなことをつぶやきながら、自分の責任を棚に上げにして、ばつが悪そうにちじこまっている息子を叱り飛ばした私でした

その息子もはや40歳、2児の親となりました。私事で恐縮いたします。

<あさひのキャンプで鍛えられた者たち>

あさひのキャンプには、いままでも多くの若者たちが参加しました。その多くはすでに社会人となって活躍しています。

私にとって嬉しいことは、キャンプで共に汗を流した仲間のうちから、社会福祉の仕事を選択する者が多く出たことです。もちろん、仕事に区別はありませんから、そのことを前提であえて述べたいと思います。

私たちのワークキャンプでは、夜に学習の時を持ってきました。参加した者たちは疲れた体にムチ打って、学習に挑戦しました。

学習では彼等が社会人として生きていくうえで考えてほしいことを、キリスト教の視点に立って書かれた書物の一部分を取り上げて読み、話し合いを行なってきました。

当時は、東駒形教会の雨宮栄一牧師がそのために、駆けつけてきて学習のためのおはなしをしてくださいました。

この学習会がどれほどの効果を発揮したかはわかりませんが、参加した者のうちから社会福祉の専門学校や大学に進む者が多く出たのでした。私は内心で、彼等はあさひでの経験、や島先生ご夫妻の生き方に影響を受けたことは間違いないと思っています。

そのうちの何人かは雲柱社や賀川記念館で働いています。

これもまた嬉しいことであります。

<感謝は絶えることなく>

ふと脳裏に浮かんできた思い出のいくつかを述べさせていただきました。

そして、今に至るまで細く長い交流をつづけさせていただいたことに感謝を申し上げたいと思います。

いたらぬ私たちの失敗を寛容な態度で受け入れてくださり、ここまでキャンプ継続してくることができました。

私事で恐縮ですが、私にとってあさひのキャンプに参加することは、その年の健康のバロメーターとなっています。キャンプを無事に終えることができれば、その年も生き伸びることが出来る、そう思うようになってきました。特に70代に入ってからはその感を強くしています。皆さんの迷惑にならないように片隅の方でもよいから、できうる限り参加をつづけていきたいと願っています。

<インターナショナルキャンプかねえ、これは、、、>

ある年は、高校生の茶髪組が多く参加しました。

児童館で悪さをしている彼等を誘ったところ、「行く、行く、、、」、というのです。

まさか行くとは思っていなかったもので、こちらもびっくり、、、と同時に不安にもなってきました。職員間でも彼等の参加には賛否両論がありました。

私としては、「行かないか、、、」、と誘った手前連れて行けないとも言えず、職員の反対を押し切って参加させることにしました。

あさひについたとき、裏の農家の人が行った言葉が冒頭の言葉でした。

当の島先生は少しも騒がず、「よろしく頼むよ、、、」、と若者たちに声をかけられただけでした。 仕事が始まりました。心配していた茶髪たちの働きぶりは目を見張るばかりでした。

裏の農家のおじさんもびっくりして、畑のスイカを持ってきてくれるやら、川へますつりに連れて行ってくれるやら、、、大歓迎を受けたのでした。

「いやあ、びっくりしたなあ、、、田舎の子どもよりよっぽど働くじゃねえか、、、」

このおじさんの言葉に、私は心の底から感謝しました。

人は髪の色で判断してはいけない、、、私がこのことから学んだ大切なことでした。

まだまだ、たくさんのエピソードがありますがこの辺で、、、

あさひは、このような問題の多い集団を30年余にわたって受け入れてくださいました。

なんとお礼を申し上げてよいか、、、言葉もない私です。



野崎忠郎

1970年代ごろからあさひ福祉作業所との“根拠地”としての関わりが始まった。(詳細はあさひ便りNo. 6参照) 現在はぐるうぷ・はこび屋としてあさひの卵を取扱中。

今朝目覚める前、あさひの夢を見ていました。

あさひは学校のような大きな建物でした。

島さんは相変わらず無口で黙々と働いていましたが、一方で絵を描く画家でした。これは多分、私が若い頃数回訪ねた、武者小路実篤が建てた「新しき村」がベースになっているのだと思います。新しき村の住人は畑仕事をしながら絵を描いたり小説や詩を書いたり、楽器の演奏をしている人達でした。数年前に行ってみたら住人達は古い畑はつぶしてソーラーパネルが並んでいました。そんなことも夢の中であさひと新しき村がごちゃ混ぜになった理由かもしれません。夢の最後は、映画の一シーンのようでした。

武代さんが額入りの絵を一枚持ってタクシーに乗っている。

ドライバーが「そうか、島さんは今頃天国で自分の描いた絵をいっぱい飾った個展を開いているんだろうな」とつぶやくところで目が覚めました。島さんは今でも私の心の中で生きています。

お体にお気をつけて、よいお年をお迎えください。

ぐるうぷ・はこび屋 野崎忠郎

謹賀新年

代表 島 武代

今年も新しい年が巡ってきました、一年はアッと言う間に経ってしまいます。

多くの正会員、賛助会員、ボランティアの皆様を支えられまして、心よりお礼申し上げます

皆様のお志が励みとなりまして、スタッフ一同、今年もよりよいグループホームになるよう働いてまいります。

お正月休みに全国革新懇ニュース（毎月発行）を読み、身震いする程の紙面に吸い寄せられました、それは以下の文面です。

経済学者の伊藤光晴氏のインタビューから抜粋

もう50年以上の前のことですが、南原繁・元東大総長が私に語った言葉が忘れられません。「憲法の平和主義は高い理想に裏付けられている。日本の国民は、この崇高な理想の重さを担えるのか。必ず裏切る。しかし、伊藤君、その時、初心忘れずだ。」重い言葉です。

終戦から70年の今年、流れてくる二ニュースは、暗い世相を反映しています。70年も続く平和外交を、改憲し、集団的自衛権をもって紛争を弾圧し、解決していく。それを実行するに、秘密保護法をまず法制化して――と大変、物騒な年になります。

平和が続くことを願いつつ、ここに寮生、スタッフ、ボランティア（定期的にいらして下さってる方々）の思いを語っていただきましたので、ちょっとくつろいでいただけませんか。（アウエロ順）



あさひの人達といっしょに
野菜の種をまいて、おいしい
野菜を食べようと思います。
スタッフ 浅野靖彦



あさひの作業所の片づけ、
上手にできます。
寮生 岩崎幸一



リフト運転はまかして！
あさひの便利屋さん
寮生 市村 明



たくさん笑う
たくさん笑う
たくさん笑う
UPDATE されました
スタッフ 遠藤栄一



あさひへの送迎
25年して下さっ
てるご主人と

青空に浮かぶ白銀の八ヶ岳南アルプス霞の裾を引き神々しく聳える富士の山、あさひにゆく車の中より目に入る景色八ヶ岳の麓に越して来て26年、この素晴らしい風景に心を洗われている。あさひに行けば皆さんが心良く迎えて下さる。おはようと作業場に顔を見せる人、ガラス窓越しに手を振ってにっこりの人、パチンと両手を合わせる人、皆さん幸せそう。

幸せって何だろう、衣食住足りて仲間と仲良く語らい一緒に慰安旅行に行ったら楽しんだり、そして何よりも幸せなことはそれぞれに合った仕事を与えられているということ。これ以上幸せなことがあるのでしょうか。私もこの施設に来て、島さんをはじめこの仲間たちと共に、週一回なれど仕事を与えられていることはとても幸せ、年を重ねましたが働ける限り続けさせて頂きたいと心より願っています。今のこの幸せに心より感謝申し上げます。
ボランティア 岩永幸子

あさひニトリサポーター 岡本隆光



今思うこと

昨年、初孫を娘が授かりました。とても嬉しいことなのですが、早産で超未熟児で約半年病院にお世話になりました。写真の子です。十年前なら恐らく助からなかっただろうと思います。でも、病院の皆様の手厚い看護のお陰で順調に育ち、無事退院までこぎ着けることが出来ました。本当に皆様のお陰だと感謝しても仕切れない思いでいます。医療の進歩、社会の相互扶助のシステム、私たちが受けることが出来た幸せ（孫への様々な援助）は、自分に出来る形で社会にお返ししていきたい、そう実感した昨年でした。今年、その事を少しでも形に変えたいと思っています。



あさひテレサホームの皆さんと歌を通してのおつき合いも、もう4年余り、早いものです。それぞれが勝手な行動をとっているようでもそこは永年の仲間。助け合ってひとつの家族となって暮らしている皆さんに教えられることが多く、私が癒されていることを感じます。今年もお互いに元気で楽しみながら歌い続けていけることを願っています。どうぞよろしく！！

ボランティア 衣笠春子



ボランティア 木田淑美



椎茸の原木運搬俺にまかせて！

寮生 小林 徹



縁あってあさひ作業所のボランティアに携わってはや8年。お陰で原藤さんといういい友人が出来ました。山梨に来て9年が経とうとしています。その間いい友人やいい出会いに恵まれ人生に幅を広げることが出来、北杜市バンザーイ！あさひバンザーイ！てな事です。

ボランティア 小村君枝



ボランティア特集とのことで、書いてくださいとありました。
あさひでのボランティア活動をはじめて、24, 5年になるでしょうか。
我ながらよく続いたものだと思えます、多い年には、30日
を超えることもありました。それは多分、島充弘さんが亡くなった後の
年であろうと思います。

何故そんなにボランティアに、入れ込むのかと思われるかと思いま
す。人は時として何かに促され行動することがある、たとえば、イスラ
ム国への志願兵として参加するのもそうです。彼らには大義（正義とは
言いません）に促されてのことです。促しということでは私と同じです、
しかし私は殺戮をするわけではありません。ただひたすら力仕事をする、
死ぬことはないですが疲れる、ケガはありますそんなことは常に、
それでも続けられるのは、最初に参加した時の体験からくるもので、ボ
ランティアは受け入れますが、あさひとしては何も出来ません、食事等
はご自分たちで用意してのボランティアですよとの、島充弘さんお考
え、自分たちも今まで、自分のことは自ら汗してやってきたのだという、
強い意志を感じたからに違いないのです。そこでボランティアとはこう
いうものだ、と、志願してきた者は、何も受け取らず、たとえ持ち出しで
あっても出来るのだと言うことを教えられたのです。そのことは十二分
に得られているのです、「何かを」。

あさひ作業所にそれが生きていければ、ボランティア参加者がいなく
なることはないと思います。また、そう願い、祈ります。

ボランティア 昆 善起



引き売りの車をきれいにしてお客
様に笑顔と気配りのある応待をし
ています。

寮生 笹生宏一



タッチ（犬）の散歩毎日して
います！

寮生 佐藤恵美子



年をとれる喜びと
思いを、かみしめて
います。

餅つき大会のの
し餅をもって
代表 島 武代



謹んで新春のお慶びを申し上げます
皆様にとって健康で平穏な年となりますよう
祈ります。「一期一会」の気持ちで与えら
れた役割を焦らず地道に務めたいと思いま
す、今年もよろしくお願いします。

オンブズマン 清水昌子



だいたい月に一回、東井出の山の家から歩いて下り、午後に何かお
手伝いをして夕食をいただき歌う会に参加して、帰りは先生方に車
で送っていただいています。ボランティアというよりはお世話になり
に行っているというのが実態です。パンやケーキ作りはいつまで
も慣れずに失敗続き、稗抜きや落穂拾いなど田んぼの仕事が性に合
っています。個性ゆたかなメンバーの魅力にひかれて細々ながらも
通っています。これからもよろしくお願いします。

ボランティア 東京・葛飾 鈴木美智子



空のように
風のように
花のように
そしていつも
あなたがそばに
スタッフ 田中紀子



ケーキ作り頑張り
まーす！
寮生 田中よし子



“Life is what happens to you while you are making other plan.”

人生とは、何かを計画している時に起きてしまう、別の出来事のことなんですね…。

スタッフ 中山正博



今年もよろしくお願いします！
ネパールの空より

スタッフ 中森 翠



今年はどんな音が出せるか
楽しみですネ！

ボランティア 成田昌穂

6月娘の治療に専念するため、退職。9月から当直メンバーとして再就職。慌ただしい1年でした。娘の治療や、あさひの当直に影響ないように、山梨日日新聞の配達を1コース46世帯、10月からはじめました。痩せてもいいのに、体重は増えるばかり。足腰は強くなったし、体調はいいのに。残念。そこで今年の目標はダイエット！70キロをめざします。わたしに美味しいものを勧めないで下さい。

スタッフ 馬場春夫

あけましておめでとうございます。

自称、料理苦手名人です。はや1年3カ月が過ぎました。今年も料理名人の田中紀子さん、調理師免許を持っていらっしゃる中森翠さんにアドバイスを頂き、レシピを参考に料理を作りたいと思っています。一品でも多く美味しかったよ…のお声を頂けるように……。そして武代さんはじめ寮生のみなさん、スタッフの方々と私達夫婦共々、健康で過ごせますよう祈るばかりです。

スタッフ 馬場真理子



あさひまで健康第一

さっさと歩き約10分

ひととのつながり出会いを大切に

今年もどうぞ宜しくお願い致します。

ボランティア 原藤憲子



あさひのみんなと笑顔あふれる一年にしたいです。日々精進していきま〜す。

スタッフ 古川 卓

あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いします。

昨年から卵の配達を担当しています。

また、本業として「登山ガイド」の仕事も何件かでき、
充実した日々を送ることができました。

今年も昨年以上に、皆様に楽しい時間を過ごせていただけるように
日々精進したいと考えています。

八ヶ岳、南アルプス他いろいろな山に行きたい方は下記までメールお願いします。

スタッフ 保坂武侍

takeshi.hosaka@gmail.com



美味しいお茶いれま〜す！！

今年も笑顔で頑張りま〜す。

寮生 峯崎由美



引き売りが大好き
で、お客様にも可愛
がられます。

寮生 南 建司



布ぞうり買って下さ〜い！！

寮生 守屋 勝



薪作りはまかして！
あさひのストーブの薪は一
手に引き受けています。

寮生 保田真木



あさひ輝くテレサホーム

私とあさひさんとの出会いは岩永様からいただきましたおいしい、おいしいパンでした。何か私にお手伝い出来ることがあればと思い岩永様ご夫妻にお連れいただきましたのが始まりです。この地へ引っ越してきまして8ヶ月目、近辺地理も、まだ分からない頃です。岩永様にご指導いただきながらよし子さん、裕子さんと只、週一回、お菓子作りのお手伝いです。度々のお休みもいただきながら、豊かな自然の中、鶏ののどかな声、あさひの皆さまの元気な笑顔に囲まれその間、多くの方々との出会いを通して、種々学ばせていただきながら、いつの間にか5年余りが流れており感謝の日々です。島様ご夫妻が燈された素晴らしいともしびにこの地域に暮らす方々の温かい心が注がれ、新しい手に支えられ、あさひ輝く、明るく、楽しい、元気溢れるテレサホームとして清々しい空気で満たされますことを念じつつ、・・・

ボランティア 山内久枝



“いま幸せです” あさひの皆様とお付き合いをして9年になろうとしております。楽しい日々でした。これからも音楽を通して一日一日を大事に生きることが出来たら、今以上の喜びを感じれることと思います。これからもよろしくお願い致します。

ボランティア 吉村トク

時空を超えた秋の旅行

第1班

スタッフ 中山正博

今回の秋の旅行は趣向を変えて…時（日光江戸村）、空（東武ワールドスクウェア）を超えた旅を企画しました。秋の紅葉と野生猿と、世界旅行を2泊3日で楽しく過ごせることが出来ました。



初のあさひの旅行

第2班

あさひ福祉作業所指導員 遠藤栄一

初のあさひの旅行、出発朝6時？5時起きじゃん。みんな気合い入ってんなー。眠い眠いまだ真っ暗だよ…と思いつつ、あさひの玄関に入ると陽気な声と満面の笑みの彼ら。これ見ると納得、みんなすごく楽しみにしてたんだ〜と微笑ましくなる。

高速道路で日光に向かう途中の車内も元気（特に市村君）があふれていて、車内があっという間にあたたかくなった気がした。このままばっくれて1ヶ月くらいみんなで放浪しちゃおーかーの話題でしばし盛り上がった。日光は少し寒かったけど、いろは坂の紅葉も終わってしまっていたけど、3日間天気も良く、普段見ることのない大きな湖（中禅寺湖）のキラキラ輝く湖面や、竜の背のように美しい滝を身近に眺めたり高ーい吊橋をゆらゆらキャーキャー歩いたり、おしゃれなログハウスの喫茶店でケーキとお茶を楽しんだり、いつもと違う空間がいつもと違う脳細胞を刺激するみたいでみんなの笑う声もいつもと違う色を発している。



日光江戸村で、けんちゃんがオーストラリアの人と友達になった。けんちゃんの強力な魔力に引き寄せられて我々のもとへやってきたその男性はハイテンションでノリノリになってふざけ合いながらお互いに何枚も写真を撮り



合ったのだ。その江戸村で笹生さんは美人のスタッフさんを、ゆうこさんはイケメンのスタッフさんを見つけツーショットを要求！普段杖を使っているミネちゃんはがんばって150段の階段を下りてライン川下りに舟った。水流はゆるやかで、この旅行を象徴するようにゆっくりと舟は流れて行く。下舟後もしばらく上りの階段、ミネちゃんのスゴイところはどんな時でもニコニコしてることだ。



3日間はあっという間に過ぎていった。このエッセンスをまた翌日から始まる日常にちょこっと溶け込ますことは出来るだろうか。そうして常識や固定化された思い込みにひずみが出来たらどんな事になるだろう。日常が旅のような感覚になったらどんな事になるだろう。それは怖いことか、楽しいことか、それともオモシロコワイコトか。想像するとちょっとドキドキする。きっと境界線なんて幻想で存在しないはずだよね。

最後に同行してくれたスタッフの田中紀子さん、会計を一手に引き受けてくれてホントに助かりました。ありがとう！そしてこの旅行があさひ最後の生活となった伊藤裕子さんいっぱい楽しんでくれてかなあ。

楽しい旅行にしてくれたみんなに感謝！



あさひ交流会のご報告

12月13日、今年はお餅つき中心の交流会でした。天気も良く、フリマや飲食コーナーも和気あいあいの中スムーズに進行し、今回はじめてのビンゴ大会も全てご用意した景品が足りなくなるほど皆さん最後まで楽しんでいただきました。

ご注文頂いておりましたのし餅も予定通りつき終わり、”お餅帰り”いただくことが出来ました。



伊藤裕子さん退所

代表 島 武代

昨年11月、14年間在籍した裕子さんが退所しました
働きの裕子さんですが、4年前から心の不安定さが表れだし、ここ2年位は顕著になって
きました。スタッフ一同、カンセラーの元で、何とか安定した生活を、、、、と対処しま
したが、集団生活は、不適當なのでは、、、、との結論になりました。
大変寂しいのですが、今後は、ご両親の元で、通所施設での生活にむけ、とり
くんでいきます
裕子さん！、あさひの14年間で得たことは何でしたか、、、、
私はじめスタッフ一同も裕子さんにどんな影響を与えたか、考えねばなりません
裕子さん！ イエス様はいつもお傍におられますよ



◎第11回あさひ交流会のお知らせ！！

◎日 時 平成26年4月11日（土）

午前10時～午後2時

◎会 場 あさひテレサホーム

（あさひ福祉作業所）

山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

TEL 0551-47-3950

賛助会員各位

特定非営利活動法人 あさひ
あさひテレサホーム

NPO 法人あさひを支えて下さいまして、誠にありがとうございます。
本年も引き続き、会員になって支えて下さいますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人 あさひ 理事長 島 武代

賛助会員費：年額 5,000円

入金方法：郵便振替口座記号番号 00220-1- 98254

特定非営利活動法人 あさひ

特定非営利活動法人あさひ あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

<http://www.asahi-teresa.com>

TEL 0551-47-3950

FAX 0551-47-4414

asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費・寄付金等

★郵便局振込★ 00220-1- 98254

編集者：中山 正博